



巻頭言 「 いわゆる X について～教育の X は探究活動にあり～」

東京理科大学理窓教育会会長 富岡 康夫(48 理・化)

D X、S X、G X など X に接頭語のアルファベットを付けて使うことが流行しています。D X は、Digital Transformation を指すと言われます。ここで X は交差の形から Trans の略語として使われています。Change ではなく Transformation であるので大きな変革をする意味です。そこで、これからの時代の教育の X は何かを私なりに考えました。中学校は 2021 年 4 月に完全実施され、高等学校では本年(2022) 4 月より年度進行で実施されています。新しい学習指導要領ではこれからの時代に必要となる資質・能力について三つの柱を示し、次のように定めています。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」です。今までの知識のみの育成では限界があります。解答なき問題に対応するためには、自ら課題を発見し解決手法を模索する、探究活動への変革が求められるのです。特に、探究活動を通じて身につく力の一つの「学びに向かう力」である「主体性」に注目します。

さて探究活動の成果として、SSH 生徒研究発表会がコロナ禍の中、8 月 3、4 日に全国指定校等 220 校が参加し、神戸国際展示場で開催されました。この発表会の第 1 回は SSH 校の指定が始まった平成 14 (2002) 年から 2 年後の平成 16 (2004) 年 8 月、文部科学省と科学技術振興機構 (JST) の主催で東京ビッグサイトを会場にして始まりました。当初の参加は 72 校で、発表審査対象校は 14 年度指定の 26 校で、ポスター発表は 14、15 年度指定校 52 校でした。

現在では全 SSH 校が参加し、各校が発表ブースをつくりポスターセッションを行っています。生徒同士の質疑応答が盛んで、教室の教師の指導では得られない主体性が育っています。今回の文部科学大臣奨励賞は横浜市立サイエンスフロンティア高校の「風を味方に昆虫をさそう?～ネジバナはなぜ花で螺旋を描くのか～」でした。ネジバナ花のつき方を研究したものです。花が放射状、直線状、螺旋状に何故咲くか、校庭の咲いている花のつき方が異なることから疑問に持ち探究活動を始めたのです。虫媒花であり、匂いが幅広く行きわたる風洞の実験を行い、統計的処理をして周りの自然環境で 3 つのパターンの花のつき方を解明しました。聞いている方がワクワクする研究であると述べていました。

今後、探究的な活動が教育の流れになると思います。教育会会員の皆様には、このような生徒の姿を是非応援して、元気付けて欲しいと思います。本学主催の坊ちゃん科学賞もこのような背景のもと開催しています。今年度さらに応募件数も増え、注目を浴び、活気を帯びています。建学の精神「理学の普及をもって国運の礎となす」をしっかりと心に刻み、理窓教育会の役割は益々重要性を増します。秋山仁審査委員長をはじめ大学関係者のご支援を頂き、全国的に誇れるものとの評価を頂いております。教育会若手教員の連携も始まっております。これを契機にお知り合いの同窓生に広めて、幅広い交流活動につなげ、本会の発展にお力を下さる

ようお願い申し上げます。

(文華女子高等学校名誉校長)

第1号議案 令和3年度 会務報告

1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和3年度も、「書面総会」の形式で実施した。

- ① 令和3年度の会務報告及び会計報告。
- ② 令和4年度の活動計画及び予算案。
- ③ 理窓教育会理事会などはコロナ禍のためZoom配信理事会で実施しました。

2. 組織の充実、強化に関して（各支部の努力・工夫で徐々に活動が始まりました）

- ① 各支部の活動状況（各支部からの報告事項から）（会報59号からのまとめ）
 - ・青森支部総会（阿保民博支部長から、8月に「おもしろサイエンス」を計画とのこと）
 - ・岩手支部総会（令和4年1月茶話会にて、元盛岡南高校、岩澤健二校長が「坊っちゃん賞」受賞）
 - ・秋田支部総会（長岐康彦支部長から、コロナ禍で中止ですが、会報の発行を行うことができた）
 - ・群馬支部総会（大塚道明支部長から、令和3年11月群馬支部総会と共に実施した）
 - ・埼玉支部総会（今西善徳支部長から、令和3年7月埼玉支部総会に合わせて実施した）
 - ・東京支部総会（富岡康夫支部長から、令和3年5月オンライン総会を実施した）
 - ・千葉支部総会（坂野直人支部長から、オンラインによる研修会を実施した）
 - ・神奈川支部総会（田中均支部長から、コロナ禍の関係で中止）
 - ・山梨支部総会（橘田多喜夫支部長から、コロナ禍の関係で中止）
 - ・静岡支部総会（樋口和男支部長から、コロナ禍の関係で中止）
 - ・富山支部総会（近藤智久支部長から、令和3年11月富山県立大学を会場にして開催できた）
 - ・岡山支部総会（三浦康男支部長から、何とか教育会総会を開催する計画です）
 - ・広島支部総会（河野正憲支部長から、理科大生の新規採用者が無く他支部に学びたい）
 - ・鳥取支部総会（齋尾宏伸支部長から、理窓会総会を復活して5年目、努力中とのこと）
 - ・徳島支部総会（濱本寛信支部長から、コロナ禍の関係で中止したが、活性化に向けて努力したい）
 - ・佐賀支部総会（森永和雄支部長から、コロナ禍の関係で中止したがオンラインなどを工夫したい）
- ③ 会報発行（コロナ禍ではありましたが、少人数で集まり発送作業を行った）
 - ・第58号 令和3年10月 発行
 - ・第59号 令和4年 4月 発行

3. 大学との連携事業

- ① 大学「キャリア教育」事業への協力 コロナ禍の中、計画されませんでした。
- ② 第12回「坊っちゃん科学賞研究論文」分野別審査会への協力及びオンライン発表会への支援

4. その他の活動（教育会主催）

- ① 新規採用教員予定者激励会（令和3年3月6日（土）コロナ禍の中で中止された）
- ② 編集委員会
 - ・令和3年7月 第58号の発行について
 - ・令和4年1月 第59号の発行について
- ④ 「若手教員ネットワークの会」について
 - (1) コロナ禍の中、8月11日（水）午後7時より、ネットワークの会幹事12名と教育会理事とのZoom会を開催し、今日的な教育課題及び近況報告会を開催した。
 - (2) 令和4年3月27日（日）午後7時～今年度第2回目の幹事会を緊急に開催した。参加者、富岡会長・並木・松原、ネットワーク会幹事8名」内容：今後の大学との連携などについて。

第2号議案 令和3年度 会計報告(案)

令和 3年度 会計

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

第4号議案 令和4年度 予算(案)

令和 4年度 予算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	33,535	33,535	0
納入会費	300,000	279,935	-20,065
理窓会正会員協力金	10,000	7,500	-2,500
地区別支部長会計より補填	0	0	0
合 計	343,535	320,970	-22,565

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
交通費	50,000	20,000	30,000
慶弔費	10,000	0	10,000
会議費	0	0	0
支部長会積立金	0	0	0
事務費	7,000	8,290	-1,290
会報2回の印刷費, 封筒代	150,000	122,100	27,900
全国会員への会報等の郵送費	110,000	89,338	20,662
ホームページ更新等	0	0	0
会長交流費	0	0	0
予備費	16,535	10,000	6,535
小 計	343,535	249,728	93,807
次年度繰越金		71,242	
合 計	343,535	320,970	

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	71,242
納入会費	300,000
理窓会正会員協力金	10,000
地区別支部長会計より補填	0
合 計	381,242

[支出の部]

科 目	予 算
交通費	50,000
慶弔費	10,000
会議費	0
支部長会積立金	0
事務費	9,000
会報印刷費等	150,000
全国会員への郵送費等	110,000
HPページ更新,オンライン活用等	20,000
会長交流費	0
予備費	32,242
合 計	381,242

※ 納入会費 1,500円×199口+500円(昨年度不足分)×1口-口座徴収料金 19,065 円 =279,935 円

[口座徴収料金内訳 152円×68人, 203円×43人]

※ 予備費の支出は原稿依頼謝礼図書カード5名分(2,000×5)

※ 令和4年度は地区別支部長会費会計より補填なし

※ 令和4年度予算案 納入会費(1,500 円×200 口=300,000 円)

※地区別支部長会費会計

令和3年度 会計

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度会計報告及び令和4年度予算(案)

令和4年度 予算

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

[収入の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
前年度繰越金	772,513	772,513	0
本年度会計より	0	0	0
受取利子	6	6	0
合 計	772,519	772,519	0

[支出の部]

科 目	予 算	決 算	比較増減
地区別支部長会費	250,000	0	250,000
令和3年度教育会費への補填	0	0	0
予備費	522,519	0	522,519
小 計	772,519	0	772,519
次年度繰越金		772,519	
合 計	772,519	772,519	

[収入の部]

科 目	予 算
前年度繰越金	772,519
本年度会計より	0
受取利子	6
合 計	772,525

[支出の部]

科 目	予 算
地区別支部長会費	250,000
令和4年度教育会費への補填	0
予備費	522,525
合 計	772,525

会 計 : (各担当理事) 齋藤常男 澁谷重雄 竹村精治 臼田三知永 古川知己

監査の結果, 正確・適正であることを認めます.

令和 4 年 5 月 6 日

監 査 : 細川秀夫

田村清志

第 3 号議案 令和 4 年度 活動計画（案）

1. 東京理科大学理窓教育会総会

令和 4 年度理窓教育会総会は、「書面総会」方式とする。それを本部で集計し、会報第 60 号に詳細を掲載して、書面で承認をしてもらうこととする。

◎ 令和 4 年度の目標として：オンラインを活用し、理窓教育会の充実と活性化を図る。

2. 各支部総会

各支部で実施する（Zoom を用いたりするオンライン会議の開催を計画する）。

3. 地区別支部長会

地区別支部長会を開催する場合、各支部長さんへの旅費などの補助ができないことが、一つの大きな理由であり、実施できないのが現状である。そこで、教育会規約を見直し改正する。（次年度扱いにいたします。）

4. 広報活動

第 60 号、第 61 号の発行とネットワーク化の推進。令和 4 年度予算案の支出科目に新規に「ホームページ更新、オンライン活用等」とし、20,000 円を計上し広報活動の活性化を図る。

5. 財政の健全化に向けて

- ① 一昨年度（令和 2 年 4 月）、郵便料金の値上げから会費が 1,000 円から 1,500 円となった。各支部では、本部への年会費の納入の呼びかけを一層進め財政の健全化を目指す。
- ② 各支部においては、若手教員など会員の加入促進の工夫に努めて、できるところから Zoom 配信等を活用し、情報交換会に取り組む。

6. 会員の拡大

同窓の教員に会報を送付し、オンラインなどを用いた会員の交流を広げ、会員の拡大を図る。

7. 大学との協力促進

- ① 教員希望学生への指導、採用試験等の情報提供については従来通り実施し協力する。
- ② 東京理科大学維持拡充資金（第二期）事業への協力。
- ③ 大学の学生募集の協力。
ア．学生募集広報に協力する。イ．第二部推薦入学の広報に協力をする。
- ④ 公立学校採用第二次選考試験及び私学採用試験対策講座等への面接指導講師派遣に協力。
- ⑤ ホームカミングデー運営への協力。実施日は 10 月 30 日（日）ハイブリッド方式
- ⑥ 「坊っちゃん科学賞」の審査・発表会への協力。実施 11 月 13 日（日）ライブ配信の予定

8. 新規採用教員予定者激励会及びプレ教員講座

激励会はコロナ感染の様子を見て判断する。大学主催のプレ教員講座は、大学の方で Zoom によるライブ配信を準備いただき、教育会のメンバーが見学できるように配慮を依頼する。

9. 若手教員ネットワークの継続化

Zoom 配信による幹事会を継続化し、ネットワーク会の全体交流会などの開催を目指す。また、大学の方針の 1 つ高大連携の活動に寄与できるように努力する。

総会 総括

令和 4 年度理窓教育会総会は、昨年度と同様「書面総会」の方式をとらせていただきました。従いまして、議案に対するアンケート形式を採り、全国支部長の皆様の意向を集約させていただきました。

◎ 集約の結果

回答のあった支部数 18 (昨年度 19)

1 号議案 賛成 18 反対 0 白票 0

2 号議案 賛成 18 反対 0 白票 0

3 号議案 賛成 18 反対 0 白票 0

4 号議案 賛成 18 反対 0 白票 0

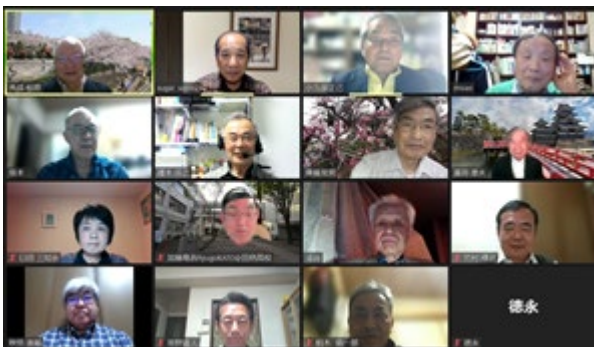
① 議案に反対する意見はありません。

② 以上、支部からの回答を吟味しまして、各議案のすべてをご承認いただいたことにさせていただきます。

以上、令和 4 年度総会は、各支部長等皆様のご協力により、無事終了させていただくことができました。皆様方のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。

ご意見等のあった支部数 0

※いただいたご意見等は 10 月 14 日の定例理事会で検討をする予定です。



(理窓教育会拡大理事会 zoom 会議 040422)

管理職への昇格

令和 4 年度の人事異動で、多くの同窓生が管理職に昇任されました。心からお祝い申し上げます。

【秋田県】

阿部義弘 58 理物 鹿角市教育長

岩見 進平 9 理工数県高校教育課指導主事

【埼玉県】

早川光男 63 理数 県立蓮田松韻高校長

【千葉県】

原 義明 県教育振興部教職員課長

中村孝幸 県教育振興部高等学校指導室長

【山梨県】

雨宮友成 H 7 理数富士河口湖町立勝山小頭

藤森一樹 H 4 理工数県峡東教育事務所指主

【静岡県】

鈴木 学 平 1 理工数県立掛川工業高校長

【福井県】

油谷泉 59 理物 勝山市教育長

【岡山県】

中西 崇 63 理数 県立勝間田高校長

【鳥取県】

倉光博史 63 理数 県立米子高校頭

以上、名簿到着の都道府県の昇任者のみ掲載です。

理窓会 支部長会

理窓会副会長 松原 秀成 (45 理・物)

理窓会全国支部長会が 6 月 26 日 (日) 午前 10 時より神楽坂校舎 1 号館 17 階大会議室で行われた。

昨年度は、コロナ禍が関係し参加支部は①福島支部、②千葉支部、③埼玉支部、④神奈川支部、⑤長野支部、⑥大阪支部、⑦兵庫支部の 7 支部でした。

しかし、今年度はコロナ感染が減少傾向にあったためか、対面で参加された支部長は 32 支部、zoom 参加支部長などは 12 名、欠席支部長は 8 名でした。

なお、海外支部からは 8 名の支部長が zoom

で参加しました。やはり対面での支部長会は、活力があり盛会でした。今回は特に、全ての海外支部が参加されたこともあり、海外支部組織の人数は差異があるものの、皆さん総意工夫を凝らされ活発な活動とネットワークを図られていることが紹介されました。そして、大学との連携ということで現役の学生達に海外での仕事についてなど交流を行っていることなどが報告された。参加された国内支部の支部長さん達も参考になりましたという感想が多数寄せられていた。

進行は槇誠司副会長が司会を務めた。冒頭の増渕忠行会長の挨拶では、2005 年に提唱された「理窓会ルネッサンス」を受けて、12 年前の 2010 年に新理窓会が発足したお話と当日、その初代会長の山田義幸氏が同席されたことが紹介された。そして、海外支部からの参加を可能にした「ハイブリッド開催」ができたことに触れられた。会場に 45 名、国内外にオンラインで 18 名が参加しているという報告がされた。最後に「会長短信」を月に 1 回発行し、全国の支部長に発信しているが今後も継続するのでよろしく願いたい。との内容であった。

今年度の支部長会の協議事項は「理窓会支部活動補助金取扱い要領」の中で、「各支部一律補助及び調整金」について、2 万円から 3 万円に引き上げたいとの報告がなされた。提案は、総務委員長の上村直樹副会長でした。具体的には、午後の代議員総会で決定されることになった。今後、各支部において実施要項に基づき支部活動の活性化のために活用をして欲しいというまとめがなされた。

次に、各支部の情報交換となりました。共通の話題は、各支部ともこの間のコロナ禍における活動について、総意工夫してきた実践的な報告であった。

やはり活動の中心はオンラインを利用した会議でした。その活性化を図ったシステムは、本部がコロナ禍の中で 3 回実施した全国を 6 つに区分したブロックのオンラインによる Zoom 会議が大いに役立ち活かされたということであった。

全国を 6 ブロックに区分し各支部長さんに参加していただき活動方法を話し合い交流し合うことであった。

最後に、今年度も海外支部が参加できるようさらなる実践化を推進することを確認し、支部長会が終了した。

理窓会 代議員総会に参加して 理窓会代議員 並木 正(55 理・物)

令和 4 年 6 月 26 日に大学 1 号館 17 階の大会議室で午前中に支部長会が、午後に代議員総会が開催されました。通常通り、昨年度の決算、今年度の予算、年間行事予定等が議題となり、全て賛成多数で可決されました。その他、会則の改正案も出され、それらも全て賛成多数で可決されました。コロナ禍の狭間であって、100 名を超える代議員が集まることができました。残念なのは懇親会ができず、相互の懇親を深めることができなかったことです。

理窓教育会も理窓会の中の関連団体になるわけですが、特に理窓会の行事で教育会に一番関係が深いのはホームカミングデーでしょうか。コロナ禍にあって、ホームカミングデーに教育関係者が集まって情報交換することは若い先生方にとって自分の教員としての生き方を確認するためにも大事なことだと考えていますが、昨今のコロナ感染の状況から、一同に会することができないのが、残念です。

理窓教育会では、教育会報を発行しているので、教職に就く会員相互の情報交換をできる場になればと考えていますが、新人の声や活躍する同窓の声等で、相互の意見交換がなかなか難しいのが実情です。私は教職課程指導室に勤務して 8 年目になります。教員志望の学生を学校へ送り出す仕事をしていますが、近年、採用後 1 年で退職してしまう教員が増えているのが、実感としてあります。退職する前に、同窓の先輩教員や教職課程指導室の退職校長に相談できなかったのかと残念でなりません。退職してしまうと連絡も取れなくなってしまうので、なぜ退職したかを聞くこともできません。一人だけ都の教員になって

1 年で退職して民間に勤めていて、私共のところへ、再度教員に戻りたいと言ってくる人もおり、なんとか採用試験へ再度合格に向けて支援したいと考えています。

**令和 4 年度 《第 13 回》
「坊っちゃん科学賞研究論文
コンテスト」について
実行委員長 松原 秀成(45 理・物)**

全国の理窓教育会の諸先生方こんにちは、坊っちゃん科学賞実行委員長の松原です。本年度「第 13 回坊っちゃん科学賞」の開催についてご報告をさせていただきます。

現在もコロナ感染に厳重に気を付ける必要があると思われませんが、ワクチン接種拡大やエビデンスなどの理解が進み、感染も減少傾向にはあるようです。しかしながら 10 歳未満、10 代・20 代の感染数は未だ多い状況のようです。本コンテストも、生徒さんの健康安全を第一に考えるとともに審査委員の先生方の健康面を鑑み、オンライン方式の開催としました。



オンライン方式も今回で 2 回目の開催になりますので、昨年度の経験を活かせると考えました。発表会においては、改善点を 2 点工夫することにしました。以下の通りです。

① 「物理・化学・生物・地学・数学（情報含む）」

の各分野で優秀賞を 1 件選出する。

② 発表会方式のオンラインを動画ではなく、ライブ配信で各学校に依頼する。（但し、予定です）

それから、本コンテスト発表会の日時などは、次の通りです。

① 発表会日時

11 月 13 日（日）午後 1 時から

※当日は、一般の皆様にはライブ配信は行いません。②の通りに一般公開します。

② 発表会の動画配信について

発表会当日の様子を録画し、動画に編集しまして、改めて皆様に公開をさせていただきます。公開の予定日は、昨年同様に 12 月 1 日に設定したいと思います。

なお、本会報 60 号には参加校の様子や結果などのご報告ができないことをお許しいただきたいと思います。

さて、本コンテストは、理窓教育会の先生方のお力添えがありませんと実践・運営などが出来ません。具体的には、まず、教育会の先生方 43 名が分野別審査委員としてご協力をいただいております。そして、事務局の先生方が 17 名おられ本会の実務を担当していただいております。まさに、理窓教育会の存在が大きいのではないかと思います。教育会の先生方には深く感謝するとともに、是非、今後ともご理解とご支援を賜りますよう深くお願い申し上げます。

また、本会運営の改善点としまして、分野別審査員の先生の中に、現職の若手教員を加えることにしました。さらに、総合審査では地学分野に大学から関陽児先生に加わっていただくことになりました。

結びに、今回もネット環境の不具合や操作などで、混乱するのではないかと一抹の不安もありますが、運営する私達も高校生のために全力で努力して参りたいと思います。

なお、また機会があると思いますが、教育会の皆様には、本会報などを通して発表会のご報告をさせていただければと思います。

教育会の皆様には、今後とも「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」に、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



理窓会 東京支部総会報告 副支部長 廣瀬 和昭(48 理・数)

新型コロナが蔓延する中、2022 年度理窓会東京支部総会や懇親会を開催するかどうかについて、東京支部役員会で熱い議論を交わした結果、実施には賛否あったがオンラインのハイブリッドで感染防止対策を万全にして開催することを決定し、5 月 22 日（日）午後 1 時 30 分より第 20 回オンライン東京支部総会・報告会・講演会を開催しました。昨年度は東京理科大学の施設は貸出禁止となったために、神保町にある日本教育会館 5 階会議室を借りてオンラインのハイブリッドで開催しましたが、今年は神楽坂キャンパス森戸記念会館第一フォーラムを借りることができました。

会場へは 30 名程度の参加人数制限をし、司会今村事務局長より総会開会宣言し、植木キク子東京支部長の挨拶で開会。来賓、支部会員および配信スタッフ、関係役員へのお礼をのべ、会次第に沿って植木支部長の議長のもとに進行。島崎・廣瀬副支部長より前期の活動報告・収支決算報告（会計監査報告）の承認後、来年度活動計画・収支予算案なども承認されました。

植木支部長任期満了に伴い役員会で承認されていた増田律子新支部長が総会で誕生しました。増田律子新支部長は長年にわたり区立中学校の校長を歴任し人望が熱く満場一致で選任されました。

総会終了後廣瀬副支部長の司会で報告会を開催。浜本隆之東京理科大学理事長より「東京理科大学の展望」と題してビデオにて創立 150 周年に向けての抱負を報告。葛飾キャンパスへの薬学部移転計画の進行状況、理工学部の改組、基礎工学部の改名など「中期計画 2026」の策定状況の発表がありました。次に今年 1 月 1 日に就任しました東京理科大学石川正俊新学長より「東京理科大学の教学の現状」について、新実力主義を掲げた本学の多様な研究力への抱負をビデオ参加にて報告してくださいました。学生の国際競争力が重要な課題であることを強調されていました。最後に増淵忠行理窓会会長よりリモートで「理窓会の現状」についての報告がありました。

次に講演会に移り、半谷副支部長の進行により本会場に直接にお越しいただいた福井県立恐竜博物館副館長一島啓人様に「化石と人の関わり」と題した講演をしていただきました。福井県は恐竜の化石が多数発掘されて、現在も発掘調査で様々な恐竜が見つかっています。中国大陸と日本はつながっていたため中生代の地球の様子よくわかる痕跡が福井県の地層には残っていて、さらに新しい発見が期待できるという興味深い講演でした。

最後に島崎副支部長よりハイブリッドでの総会が開催できたことへの感謝の言葉を締めとして 16 時 30 分閉会しました。懇親会はコロナ蔓延のため中止としました。

会報第 60 号発刊を祝して 磯脇 一男(39 理・数)

理窓教育会報第 60 号の発刊おめでとうございます。平成 4 年 5 月 27 日の創刊号発刊以来 30 年間、年 2 回確実に発刊し続けてこられた編集委員会を中心に東京支部の役員の方々から心から感謝申し上げます。教育会発足当時、事務局や会報作成に携わったこともあり、50 号で会報作成の手続き等を紹介しました。その中で、会報作成が如何に大変な作業である

かご理解して頂けたと思いますが、今日でもこの状況は続いております。

会報の意義について、初代会長の有竹雅夫氏（故人）は、創刊号の中で、「各支部の新鮮な活動状況や大学の情報、また、会員の研修に必要な研究論文、会員の意見を汲み上げて必要な情報の幅を広げ・・・」と示しておられます。歴代編集委員の皆様の努力によって、この目的は十分果たしていると考えます。

ただ、今一番気がかりのことは会員の減少です。この状況が続けば、会の目的である会員相互の資質向上や大学への協力が希薄になるだけでなく、会費収入の減少は、会報の発刊にも支障をもたらします。本誌奇数号で紹介される支部報告では、いずれの支部でも会の運営、会員の増加に腐心しておられる様子が窺えます。理窓会のご支援も不可欠と考えます。幸い理窓会の役員の中には教育会関係者も多くおられます。理窓会支部活動と連携し支部総会の折に会報の配布等教育会のPR活動を積極的に行うことは如何でしょうか。

また、新しい試みとして、松原秀成氏を中心として進められている「若手教員ネットワーク」の活動があります。（53、54号）また、59号には同会会員の方が「理科大のつながりを生かしていきたい」と力強く述べておられます。この若手のエネルギーを何とか会員増加、ひいては理窓教育会の発展につなげていければと願っています。

「理学の普及をもって国運発展の基礎とする」との母校の建学精神を最も具現化できるのが理窓教育会であるとの自負をもって会の発展を祈念しています。

広報活動の歩みと情報環境の進化

伊藤 操（36 理・物）

私が教育実習指導室を退職してから 15 年を超えておりますがこの間のパソコンの発達には素晴らしいものでした。ここでは我東京理科大学教育会報の編集を中心に述べてみたい

と思います。

今に続く会報の原型を作られたのは磯脇一男先生が中心でした。今から思えば 5 インチフロッピーディスクを使い文書中心のもので画像は僅かしか入れることができませんでした。その点、現在は小久保正己先生を中心として編集が行われていますが、全国の支部長報告、活躍する同窓の先生方の報告などメールによる情報交換が積極的に活用されております。

一方、コロナ禍にあり、社会が大きく変わろうとしており、教育会では会合などの密状態を避けるためオンライン会議を松原秀成先生が中心に進められております。コンピュータ、情報技術の発達は私たちの教育的注意を怠らなければ、教育の未来は大きな可能性を持っており、明るいと思います。

真水の研究費

坂本 功（41 理・数）

私は「坊っちゃん科学賞研究論文コンテスト」の実行委員長を 8 年間勤めました。発表会の後、論文を作品集として編集し、応募した生徒達や、審査した先生方に送っています。残った作品集を整理しているとき、理窓会事務室の女性が「この生徒さんの中から、将来ノーベル賞受賞者が出るかもしれませんね」と言いました。

前学長の松本洋一郎先生が、「真水の研究費が欲しい。研究費には、みな色が付いていて、自由な研究ができない」とお話ししました。

日本のノーベル賞受賞者の先生方は「基礎研究が大事だ」と訴えています。成果が出やすい応用研究にばかり目が行ってしまい、何が成功といえるのか分かりにくい基礎研究が軽んじられていると。

今政府が 10 兆円の基金で、大学の研究を支援する「大学ファンド」も真水の研究費ではないでしょう。

新任教員の抱負

千葉市立稲毛高等学校

教諭 宮脇 くるみ (令3理・数)

学生の頃からずっと追いつけていた「高校の数学教員になる」という夢を叶え、2021年4月、私は稲毛高校の教壇に立ちました。

着任して最初の1ヶ月は、生徒が一生懸命に物事に取り組んでいる姿をそばで見たり、生徒たちと他愛のない会話をしたりすることが嬉しく、念願の教員になれたことに改めて喜びを感じました。そして月日が流れ、仕事を覚えていく中で、学校行事の準備や学年の仕事など、今まで知ることができなかった教員としての業務が非常に多くあるということも知りました。また、周りの先生方への事前の連絡や細やかな配慮など、社会人としての自覚と責任をより強く持たなければならないのだということを学ぶことができた1年間でした。

今年度からは、初めて高校1年生の担任や教科内学年チーフを任せていただき、今は学級経営についても多くのことを学んでいます。特に、文化祭に向けての準備では、「進みが遅いのは私の声かけが甘いからだろうか」など悩むことが多々ありましたが、先輩教員に「生徒に失敗を経験させるのも大切だし、何が正解かなんて担任を何回かやった俺たちにも分からないから大丈夫。教員は学び続けるんだ」と助言をいただきました。教職課程で習った『教員は学び続ける』ということ、身をもって知った瞬間でした。そうして迎えた本番では、素晴らしい出し物を作り上げることができ、生徒からも「時には大変なこともあったけど、自分たちで工夫し、みんなで乗り越えられたから、達成感でいっぱいです!」という声を聞くことができました。手取り足取り教えるのではなく、生徒を信じ、温かく見守ることも時には大切なのだということを深く学びました。

教員2年目として悩んだり苦しんだりする

こともあります。クラスや部活、授業など、学校生活の多くの場面で生徒たちの笑顔と成長に触れる度、「やっぱり私は教員になってよかったな」と心の底から思います。これからも教員として精一杯の努力を重ね、様々なことを吸収しながら、生徒とともに少しずつ成長していきたいです。

日本女子大学附属高等学校

教諭 鈴木 風花 (令3理・物)

日本女子大学附属高等学校は正門を跨ぐと、緑にあふれ、季節ごとに色とりどりの花々が迎えてくれる学校です。生徒の自治と自由を重んじる学校で、私自身も日々学び続けております。

物理の授業は、理科棟という建物で行われることが多く、実験実習を多く取り入れた授業を展開するつもりでした。しかし、感染症対策で向かい合って座る実験室の使用は禁止、器具を共有することも禁止、実験を行う上で制限が多くありました。人数を半数に分けたり、実験は演示で行いデータ解析を主にした実験を考えたりと工夫をしました。教育実習とは違い、実際に授業を受け持つと思った以上に楽しく、生徒との対話を大切にするこの意味がやっと理解できました。同じ内容の授業でもクラスによって広がり方が違いますし、生徒の反応も違います。まだまだではありますが、授業の3割は私から教える、7割は生徒の活動、というくらい生徒の活動を大切にしたいです。

今年度からは担任も持たせていただき、楽しくも緊張感や責任感のある日々になりました。生徒1人1人に対する個への対応と、クラスとしての集団への対応の難しさを感じています。それでも、笑い声も多く、この数か月でクラスの雰囲気が馴染んできたように思います。またクラブ活動も、顧問2つに加え新しく顧問長も担当し、忙しい中で生徒の頼もしさを実感しております。様々に悩み工夫している生徒の提案を却下せざるを得ない苦しい決断もありました。その中でも楽しそうに真剣に取り組んでいる生徒は眩しいく

らいに輝いています。その他の校務では、特にデータ処理や資料作成について社会人として多く学ばせていただきました。ICT 化も進む中、知識不足な点もありましたので引き続き勉強していきます。

今年度の目標は、教室をきれいに保つことです。小さいことでも大切なことから、丁寧に余裕を持って行えるよう努力してまいります。

東京都豊島区立西池袋中学校

教諭 太田 悠貴（令 3 理・数）

令和 3 年 4 月。私は豊島区立西池袋中学校に赴任しました。どのような生徒と出会うことができるのだろうと密かに期待していた自分を思い出します。私は中学生の頃から数学教師になりたいと思い始め、ようやくその夢の第一歩を歩き始めました。

1 年目の 4 月は、これまでの人生で最も長く感じた 1 か月でした。右も左も分らぬまま与えられた業務をこなす日々でした。あの頃の授業はとにかく成立させることに精一杯で、自分に余裕がなく生徒の様子をしっかりと見ることができていなかったように思います。毎日何かに焦っていました。教員の仕事は授業だけではない、というのも仕事に就いて初めて実感しました。日々、先輩教員や管理職にご指導いただきました。

膨大な業務に追われながらも、あっという間に時は過ぎ、私は今年 1 年生の担任を任されています。2 年目となり少し仕事にも慣れ、自らに余裕ができましたが、勉強の毎日です。

学習指導では、昨年度よりも授業改善のおもしろさを見出せるようになりました。『主体的・対話的で深い学び』をどのように実現するか、ICT をどのように活用していくか、日々模索しています。その中でも、生徒のよい反応が返ってきたときに喜びと自らの成長を実感しています。無論、上手くいかないときの方がまだ圧倒的に多いのですが、どこが良くなかったのか自分なりに分析し、次回以降の授業で改善できるように心がけていま

す。

生徒指導はやはり難しいです。二度と同じ過ちを繰り返さないよう生徒には諭すように指導していますが、果たして彼らに響いているのか正直不安でもあります。

毎日、四苦八苦・悪戦苦闘しながら教師という職をやっていますが、昨年度は「本当に自分にこの職業は向いているのだろうか」と悩むことも多かったです。しかし、今年初担任で迎えた運動会の大縄跳びで、学級が一致団結し、それまで跳べていなかった 30 回を跳んだとき、私は心の底から喜びを感じました。生徒と喜怒哀楽を共有し、共に成長することができるこの職業は、天職なのだと思います。

今もっている生徒たちがどのような姿で卒業していくのか楽しみでもあります。私自身も彼らに負けずに成長し続けていきたいと思います。

埼玉県立岩槻商業高等学校

教諭 久我はる香（令 2 理・修科学教育）

令和 3 年 4 月に岩槻城下にある岩槻商業高校に着任し早 1 年が過ぎました。今回、このような機会をいただきましたので、教員になって 1 年余り、私が力を入れてきた教科指導と部活動指導について記したいと思います。

本校は生徒の半数が就職をする進路多様校であり、小学校・中学校時代から数学が苦手、数学が嫌いな生徒も一定数います。そのような高校で私が教科指導において力を入れているのは、生徒たちが話し合い、教え合える環境を作ることです。着任したての頃は、私が机間巡視をして個別に教えることを多く行っていました。しかし、それではクラス内の生徒たちの学力に差もあつたため時間がかかる生徒と暇を持て余してしまう生徒との両方が出てきてしまい、効率的ではありませんでした。そこで、生徒どうしで教え合うという活動を多く取り入れました。そうすると、自発的に考え一生懸命友達に教える、生徒たちの生き生きとした様子が見られるようになりました。ただ、寡黙な生徒がいたり、発問

の仕方が悪くうまく伝わらなかったりとまだまだ課題や反省だらけです。今後も工夫を重ねながら、生徒たちが楽しめる数学の授業を作り上げていきたいと思います。

私が教科指導に加えて力を入れているのは部活動指導です。2年目の今年は、女子バスケットボール部の主顧問をやっています。最初は2人しかいなかった部活も、今は7人と少しずつ活気が出てきました。私が部活指導で常に意識にしていることは、生徒たちは数年後に社会に出るということです。生徒の殆どがバスケットボールをやるのは高校までであり、競技を通して社会に必要な力や習慣をつけることに主眼をおいて指導しています。

教員として働き始めて2年目。教科・部活動分掌・生徒指導、まだまだやることが山積みですが、これから先の未来をつくる生徒たちを育てられるよう、今後も奮闘していきたいと思います。

神奈川県愛川町立愛川中学校

教諭 大矢 哲平（令3理・物）

初任者を経て

私の夢は母校愛川町立愛川中学校で理科の先生になることでした。昨年度、愛中に初任者として赴任しました。

初年度を振り返ると、様々なことを経験しました。1年目の校務分掌は、2学年担任、2・3学年の理科の教科担任、卓球部の主顧問でした。

1学期、初めての行事体育祭でクラスの男子生徒とぶつかったり、休み時間にたくさん遊んだり交流を深めました。部活では県大会出場することができました。2学期は生徒間トラブルが立て続きにおき、クラスをどう立て直すか悩み続けました。3学期は合唱コンクールで、生徒の頑張りがみのり、最優秀賞をとることができました。この1年間は様々なことがあり、辛い時期もありましたが何とか乗り切ることができました。

初任者を経て、今後の教師生活で大切にしたいことが2点あります。

①無理をせず、自分を大切にすること

とてもハードな1年で、特に1学期はパンクしそうでした。無理をし、余裕がなくなると、生徒の変化やSOSに気づけなくなりました。自分がダメになったらこの学級をダメになると思いました。自分の体調や精神を安定させることを第一に意識しました。

②生徒理解が最重要であること

指導や支援に生徒理解が最重要であると感じました。様々な指導方法を試した結果、その対象の子に響かないことが多かったです。実際に、アドバイスが欲しいというよりただ話を聞いて欲しかったということも多々ありました。方法はいくらでも探せるけど、その子への理解は実際に関わってみないとわからないです。生徒が何を求めているような実態なのかを適切に理解し、支援・指導をしようと思いました。

生徒のおかげで、とても良い経験ができました。振り返ると自分の指導が間違っていたんじゃないか、支援が違ったらもっと良い方向に向かったんじゃないか、思うことがたくさんあります。今は学年をはずれ、1学年の担任をしています。子供たちが充実した学校生活を送れるよう、日々努力したいと思います。

教職員 6 年目を迎えて
群馬県みなかみ町立水上小学校 教諭
梁川 昌樹（平28理・数）

私は現在、体育主任として小学校に勤務しています。採用から4年間は、数学の教員として中学校に勤めていました。初任者として、最初に勤務した中学校では、授業の作り方、ノートの書かせ方、生徒指導、組織として働くことなど、教員としての基本的な土台を学びました。当時の私は、運転免許を持っていない、知り合いもいなく、不安でいっぱいでした。1年目は、教科書の内容を一生懸命、生徒に教えているだけという授業でした。生徒から「分かりにくい」「数学が好きじゃない」という声を聞いたとき、とてもショック

でした。自分には才能が無いのかもしれない、と心から思いました。そこで、他の先生の授業を見学したり、初任者研修では、代表授業に挑戦し、授業を公開したり、惜しみなく努力しました。そこで分かったことは、授業を受けた子どもたちは、どんな姿になるのかを明確にすることが大事だと気付きました。また、教えるだけでなく、子ども同士の対話の場を設定することも大事であることが分かりました。目標を達成した子どもの姿が、授業者の頭の中に入っていることで、発問や言葉がけもうまくいき、授業が楽しいと思うようになるのではないかと考えました。

2 年目になると、担任をもつことになり、より一層教員としての責任を感じました。授業にもこれまで以上に力を入れました。その結果、指導主事訪問で実践した授業の指導案が、市内の参考資料に選ばれました。授業のゴールと対話の設定をすることは、今の私の授業スタイルの根底になっています。

現在勤務する小学校でも、国語や社会、理科などの教材を研究する際、いつもゴールと対話の設定を大事にしています。群馬県では、6 年目の教職員は「キャリア段階Ⅱ」という立場になります。これまで、自分自身の指導力を向上させるために努力してきましたが、6 年目からは、周囲の教職員に助言したり、学校経営に積極的に参画したりする力を鍛えなければなりません。これからも、教職員としてひたむきに努力していきたいです。また、児童だけでなく、一人でも多くの地域の人たちから、信頼される教職員を目指したいです。

(若手教員ネットワークの会)



9 年目を迎えて
新潟県燕市立燕中学校 教諭
石川 早紀 (平 26 基礎工・生物)

東京理科大学を卒業して、都内の私立の中

高一貫校に 4 年間勤務しました。その後地元の新潟県に戻り、公立中学校の教諭となって、現在 5 年目になります。

教員という仕事に就いてからは通算 9 年目になりますが、社会の変化に伴って、学校の業務内容も変化していき、課題に直面する毎日です。例えば、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、急速に進んだ ICT 機器の導入で、各教室へテレビが設置されました。学校現場ではなかなか見せることのできなかったモノや現象を、映像で見せることができ「とても便利になった」と感じています。一方で生徒 1 人ひとりが持つタブレットを、どのように使えば「生徒にとってより有意義な授業になるのか」「レポートや課題のチェックがより効率的に行えるのか」まだまだ試行錯誤中です。その他にも個別の生徒対応など、管理職や学年主任の先生などと連携を取りながら、対応する毎日です。

そんな多忙な日々の中でも、私にとって嬉しい気持ちになったりやりがいを感じたりする瞬間があります。それは、卒業時に生徒や保護者が書いてくれた手紙をもらったり、卒業生がときどき連絡をくれたりする瞬間です。日々成果が見えるわけではないし、課題に直面する毎日ですが、そんな瞬間が嬉しく、まだまだ教員という仕事を続けていきたいと思っています。

思い返せば大学 4 年生の秋、教員採用試験に落ち、これからどのように進んでいけばよいか分からなくなっていた私を、教職支援室の先生方は優しくサポートしてくださりました。親身になって支えていただいたおかげで、気持ちを前向きに切り替えることができ、私立学校の教員への試験にチャレンジできたことをよく覚えています。私立学校に勤めた経験は、私の人生になくてはならない時間であり、この道で間違っていなかったと自信をもって言えるものとなりました。理科大学の教職支援室の先生方には感謝でいっぱいです。これか



らも全国でご活躍されている先生方から刺激を受けながら、教員という仕事に邁進したいと思っています。

(若手教員ネットワークの会)

同窓の活躍

東京理科大卒校長のチャレンジ

柴田 功 (62理・物)

近年は、将来の予測が困難な VUCA の時代と呼ばれているが、学校現場の変化も著しい。私は、東京理科大を卒業後、35 年間、神奈川県立高校や教育委員会で勤務してきたが、特に「教育の情報化」については、劇的な変化が求められ、生徒一人一台端末の活用した授業やオンライン学習の実現、ICT を活用した働き方改革などを同時に推進している。こうした、教育の情報化の変遷を私の経歴に合わせで紹介する。

私は大学卒業後、平成元年度から神奈川県立高校の物理の教員として勤務していたが、平成 12 年度に現職教員を対象とした講習会を受講し、新教科「情報」の教員となった。当時勤務していた川崎北高校では、情報科の授業を 2 年先行して実施し、ホームページ作成やプレゼンテーションといった内容を授業に取り入れ、テレビ等のメディアで取り上げられた。その後は、授業における ICT 活用を全県に広めることを期待され、神奈川県立総合教育センターの指導主事となった。ちょうどその頃、インターネット接続、パソコン教室設置、サーバー設置やなど、学校の ICT 環境は大きな転換期を迎え、校務情報化も始まった時代である。平成 21 年度からは、県教育委員会の指導主事として、情報教育、成績処理支援システムなどの主担当となった。その後、教頭、副校長を経て、県教育委員会の ICT 推進担当課長に就任し、GIGA スクールの環境整備を推進した。

令和 2 年度に校長になり、再び川崎北高校に着任したものの、コロナ禍による臨時休校

で生徒は登校していない状況だった。そうした中でも学びを継続できるようにと、前職で整備したばかりの生徒用端末、民間の光インターネット回線、クラウドサービスをフルに活用して、4 月中にオンライン授業を軌道に乗せることができた。この頃に、校長自ら「授業動画を作ろう！」という動画をスマートフォンで撮影し、YouTube で公開したところ、大きな反響をいただいた。

令和 4 年度からは、スーパーサイエンスハイスクールに指定されている神奈川県立希望ヶ丘高等学校の校長に就任し、GIGA スクール環境をフルに活用した課題研究に力を入れている。このように、高校教員や指導主事、管理職と職が変わっても、私は一途に教育の情報化に深く関わり、他校の参考にしてもらえるような学校づくりに日々励んでいる。

こうした取組を続けていると、様々なチャレンジをしている校長と出会う機会が増えた。互いの取組を労い、意気投合して Facebook でつながるようになると、互いに東京理科大学出身であることに気付き、驚くことが多くあった。例えば、都立高校でいち早くオンライン授業を実践した都立日比谷高等学校の武内彰校長（現白梅学園高等学校校長）、学級担任や定期試験など、これまでの学校の在り方を見直した千代田区立麹町中学校の工藤勇一校長（現横浜創英中学・高等学校校長）、全国規模で情報科の研究会の組織化を推進している都立田園調布高等学校の福原利信校長など、東京理科大卒の校長と交流ができた。県内に目を向けると、県立総合教育センターの歴代所長 3 名の他、校長を退職した先輩も多数いて、何でも相談できる、心強い環境が整っている。

東京理科大卒の先輩・後輩教員に共通する点は、直面している課題の本質を見抜き、限られた資源の中で、具体的な解決策に取り組んでいる点にある。その力をすべて大学で身に付けたわけではないが、その基盤は、東京理科大学で培った資質能力であることは間違いない。親バカなことを言えば私の娘は、高校 3 年生の時には坊っちゃん科学賞で最優秀

賞を受賞し、その後、東京理科大に入学した。卒業後は神奈川県立横浜翠嵐高等学校の物理の教員として現在も頑張っている。

今後ますます高度化、複雑化した社会になっていくが、物事の本質を見抜き、できることからチャレンジしていく後輩たちが世界のリーダーとして活躍していくことを期待している。(神奈川県立希望ヶ丘高等学校長)

大学との連携～教職に向けて～

中村 信雄 (55 理工・応用生物)

2020 年度から始まった Covid-19 の流行は、大学の授業形態にも大きな変化を引き起こしました。教職課程でも、一昨年はリモート中心、昨年度はハイブリッドの授業でしたが、今年度は対面中心となり、感染者が多い状況ですが通常の風景に戻りつつあります。また、模擬授業などは対面で行いながらも、動画やアプリの活用、レポートはネットワークで提出する、といったように、学生の BYOD^{*1}と併せて教職課程における ICT 活用は着実に進んでいます。教職課程を登録している学生は、2022 年度は 405 名^{*2}ですが、前年度の 447 名から減少しています。理由は様々考えられますが、いずれにしても教職そのものの魅力が求められています。

卒業生との連携ですが、4 年で実施している教職実践演習という科目で、同窓である都立日比谷高等学校の荻野大吾指導教諭から現職ならではのご講義をいただき、学生には有意義な授業となりました。教育実習では、感染症の影響で教職課程の専門員が実習校に訪問する機会が少なくなり、これまでのように学校で活躍されている卒業生の先生方とお会いできる機会が減ったと感じています。

教員希望の学生には、教員採用試験対策講座による支援を実施してきました。3 年の 10 月から行う事前対策講座、1 月に行う私学教員採用試験対策講座、2 月に行う春期集中講座、4 年の 4 月から始まる直前対策講座、そして、二次対策講座として個人面接や模擬授

業の練習に取り組んでできました。そして、4 年の 3 月の卒業前にはプレ教員講座を経て、対策講座に参加した学生が教員として巣立っていきました。その中でも、私学対策講座では、昨年度に引き続き京華女子中・高等学校の塩谷耕校長先生、東京農業大学第三高等学校の工藤ひかる先生に、採用への道のり、教員生活について貴重なご講義をいただきました。また、プレ教員講座では、着任されて間もない石川正俊学長、眞田克典教職教育センター長にご講義いただくとともに、これから教員となる卒業生が思いや決意を語り、新たな人材を教育界に送り出すことができました。

このように、採用試験対策や教職の授業においても、教員養成実績のある本学ならではの繋がりを活かしています。理窓教育会には、教職の指導だけでなく、教職の魅力を発信することが求められています。

^{*1}BYOD : Bring Your Own Device で、学生は自分のデバイス (PC など) を教室に持ち込むこと

^{*2}神楽坂キャンパス、野田キャンパスの総計



(葛飾キャンパス)

事務局より

1 理窓教育会事務局について

理窓教育会事務局は PORTA 神楽坂 6 階の理窓会事務室内に置かれています。

ただし、理窓教育会事務局専属の事務員がいるわけではありませので、ご連絡は郵送でお願いいたします。

なお、お急ぎの場合には、2 の支部長等の連絡窓口にご連絡ください。

書面での連絡先

〒162-0825 新宿区神楽坂 2-6-1
PORTA 神楽坂 6F 理窓会事務所内
東京理科大学理窓教育会 宛

2 支部長等の連絡窓口

教職課程指導室 高橋 伯也（編集担当）

TEL 03-3260-4271 内線 2780

FAX 03-3260-1776

メール takahaku@rs.tus.ac.jp

3 理窓教育会ホームページ

「理窓教育会」と入力すると、開きます。
「東京理科大学理窓会」のホームページの中に「理窓教育会」のものがあります。

ホームページアドレスは次の通りです。

<http://risoukai.com/educ/>

（編集後記） 第 60 号をお届けいたします。

お忙しい中、紙面総会等でご協力いただいた支部長さん、原稿や記事をお寄せいただいた皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。有難うございました。

本号は**紙面総会の特集**です。ご回答と共に**管理職への昇格**についても数多くの情報をいただきました。支部長の皆さんのご協力に感謝いたします。

また、理窓会副会長の松原秀成さんに理窓会関連の記事、そして坊っちゃん科学賞研究論文コンテストなどについて書いていただきました。

さらにお忙しい中、5 名の方から、**新任教員の抱負**をお寄せいただきました。官脇くる

みさん、鈴木風花さん、太田悠貴さん、久我はる香さん、大矢哲平さん、コロナ禍の中でのご執筆有難うございました。改めて、全国の新任教員の皆さんのご活躍を祈念いたします。

また、**若手教員ネットワーク**のお二人、群馬県みなかみ町立水上小学校の梁川昌樹さんと新潟県燕市立燕中学校の石川早紀さんにレポートしていただきました。梁川昌樹さんは大学の小学校教員養成プログラムに応募して小学校教員の免許を取得しました。

そして、同窓の活躍コーナーでは神奈川県立希望ヶ丘高等学校長の柴田功さんに「**東京理科大卒校長のチャレンジ**」を書いていただきました。

改めて、理窓教育会報第 60 号の発刊おめでとうございます。平成 4 年 5 月 27 日の創刊号発刊以来 30 年間、年 2 回確実に発刊し続けてこられた編集委員会を中心に東京支部の役員の方々に心から感謝申し上げます。磯脇一男さん、伊藤操さん、坂本功さんにお祝いのメッセージをいただきました。

会員増強が大きな課題です。未加入の同窓がおられましたら、ぜひ入会を勧めてください。コロナ禍で対面の行事や会議・親睦会などが思うようにできず苦戦しております。そのためにも、理窓教育会報をこれからますます充実できるよう、フレッシュな気持ちで全国の皆様と取り組んでいきたいと考えます。

支部のニュース等がありましたらお知らせください。ご質問やご意見等がありましたら、**支部長等の連絡窓口メール**に遠慮なくご連絡ください。（小久保正己）

4 会費納入状況

下記の表の通りです。令和4年度は9月5日現在の納入者数です。ゆうちょ銀行で払込む際、窓口203円、ATM152円が徴収されております。今後の会費払込みにつきましては、できるだけATMで行っていただきますようお願いいたします。

各支部の活動もコロナ前のように行われていないこととご推察いたします。そのような状況下ではございますが、会費収入の増加につきまして、会員の皆様のご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

なお、郵便払込取扱票の口座番号などは、次の通りです。

(口座番号) 00160-9-715349 (加入者名) 東京理科大学理窓教育会

(会計担当理事 57 理・数 白田 三知永)

理窓教育会 支部別会費納入数

県名	元年度	2年度	3年度	4年度	県名	元年度	2年度	3年度	4年度
北海道	2	1			滋賀				
青森	1	1			京都				
岩手	4	4	5	1	大阪				
宮城	2	3	5	2	兵庫				
秋田	18	24	15	15	奈良	1	1	1	1
山形		1	1		和歌山				
福島	1	1	1	1	鳥取	1	1		1
茨城	10	6	9	4	島根				
栃木	1	1	1	1	岡山	4	1	2	2
群馬	3	3	5	2	広島	29	26	37	1
埼玉	34	23	27	6	山口	2	2	2	
千葉	3	1	13	4	徳島	1	1	1	1
東京	63	38	50	32	香川				
神奈川	13	8	10	10	愛媛				
山梨	1	1	1	1	高知	1	1	1	1
長野		1			福岡	1			
岐阜	1				佐賀	1	1	1	
静岡	11	10	6	2	長崎				
愛知		1	1	1	熊本				
三重	1	1	1	1	大分				
新潟	2	2	2	2	宮崎				
富山	1	2	1		鹿児島	1	1		1
石川					沖縄				
福井	1				合計	215	168	199	93

令和4年度 9月5日 現在

「理窓教育会」、「若手教員ネットワーク」の皆様

「理大 科学フォーラム」デジタル版でリニューアル

科学フォーラム編集委員会委員長 渡辺一之

本学は、“科学と技術に関する知識と情報を広く周知し、理学の普及および生涯教育の啓蒙の一助とすること”を目指し、1984 年より科学教養誌「理大 科学フォーラム」を発刊しております。主な読者層は、高校理数系教員、本学教員、維持会員の皆さんで、発行部数は冊子体で約 4500 部になります。本誌は冊子体ということもあって限られた方の目に触れる状況が続いておりました。そこで、できるだけ多くの方々に読んで頂けるよう、本誌はデジタル版（pdf）も発行することとしました。本学公式ホームページ上にデジタルパンフレットと pdf 版を掲載することで、“いつでもだれでも”ダウンロードして読むことができるようになります。これを機に、インタビュー記事を増やし、高校理数系教員向けの従来のコーナー「理科実験紹介」に加え、新コーナー「情報科教育のヒント」を開設し、表紙デザインを新しくし、B5 判から A4 判サイズへの変更を行って、2022 年 10 月号から、「科学フォーラム」（リニューアル版）としてスタートします。

「理窓教育会」、「若手教員ネットワーク」の皆様にとりまして、本誌が授業設計等で少しでもお役に立てれば幸いです。お手数で恐縮ですが、皆様をご存知の本学同窓教員の方々へ pdf 版発行についてお知らせ頂ければ幸いです。

今後も本学のステークホルダーそして一般の方々にも、東京理科大学だからこそできる科学と技術の創造の“今”を発信し続けて参ります。引き続き「科学フォーラム」にご支援よろしくお願い申し上げます。

➤ 10 月号からのデジタル版（10 月 3 日公開予定）には、URL もしくは QR コードからアクセスできるようになります。

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>

